

潜在危険性

火災・爆発

- ・ 引火性/可燃性物質
- ・ 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
- ・ 乾燥品は熱、火炎、摩擦又は衝撃により爆発するおそれがある。爆発性物質として取り扱う。(指針112)
- ・ 水湿体品とするか、爆発性物質として取り扱う。(指針112)
- ・ 下水溝に流れ込むと火災・爆発の危険がある。

健康

- ・ 有毒なものがあり、吸入、吸飲、皮膚から吸収されたりすると致命的となるおそれがある。
- ・ 接触により皮膚や眼に炎症を起こすおそれがある。
- ・ 火炎によって刺激性、毒性及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
- ・ 消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。

公共の安全

- ・ まず、送り状記載の応急措置照会先に電話する。送り状がない場合や応答がない場合、関連機関のデータベース等に照会する。
- ・ 直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- ・ 関係者以外は近づけない。
- ・ 風上に留まる。
- ・ 密閉された場所に入る前に換気する。

保護具

- ・ 空気呼吸器(SCBA)を着用する。
- ・ 防火服は限られた防護をするに過ぎない。

避難

大量漏洩時

- ・ すべての方向に適切な初期避難距離をとる。

火災時

- ・ タンク、貨車あるいはタンク車が火災に巻き込まれた場合は、すべての方向に、適切な隔離距離と適切な初期避難距離をとる。

緊急時の措置

火災時

積荷火災

- ・ 火が積荷に燃え広がったときは消火してはいけない！積荷が爆発するおそれがある！
- ・ 全ての交通を止め、その地点から全ての方向に適切な区域は避難させ、燃えるままにする。
- ・ 積荷が熱にさらされているときは、その積荷や車輛を移動してはいけない。

タイヤあるいは車輛火災

- ・ 大量の水を注水する！水がないときは二酸化炭素、粉末消火剤あるいは土を用いる。
- ・ 可能であって、危険がなければ、積荷への可能な限り遠くから、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
- ・ タイヤ火災は消火後に再発火が起こる場合があるので、特に注意が必要である。消火剤をいつでも使用できるように準備しておく。

漏洩時

- ・ すべての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
- ・ 漏洩物を取り扱うとき用いるすべての設備は接地する。
- ・ 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

少量のもれ

- ・ 大量の水で洗い流す。

大量のもれ

- ・ 水で湿らし、せき止め、後で廃棄する。
- ・ 湿った物質は大量の水をゆっくり加えて湿った状態を保つ。

応急手当

- ・ 被災者を新鮮な空気の場所に移す。
- ・ 救急車を呼ぶ。
- ・ 呼吸が停止している時は人工呼吸を行う。
- ・ 呼吸困難の時は酸素吸入を行う。
- ・ 汚染された衣服や靴を脱がせ、隔離する。
- ・ 漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは眼を最低15[20]分間洗浄する。
- ・ 医師に暴露物質名、防護のための注意を通知する。